

Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.54
2013.7

二兎社公演38「兄帰る」

永井 愛インタビュー

Report! 春のフレンテ・イベント

「ベアテさんからの贈り物」
「こっそり聴きたいBook café」
「自己主張トレーニング」
「自己尊重トレーニング」
「男はつらいよ 働き盛り*男の人生設計」

三重そうぶんシネマスクエア2013
関口祐加監督「毎日がアルツハイマー」

大人女子のためのkkossori夜話会
こっそり観たい映画会「THEダイエット!」

Report! 「三重県内男女共同参画連携映画祭2013」

スペシャル・エッセイ

ノンフィクション作家 中村 安希

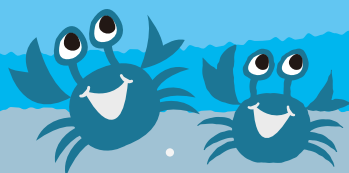
「世界を旅して、女性の生き方をみる」
～パキスタン編②～

夏、ときはなつ!

Report!

男女共同参画強調月間ff（フォルティッシモ）
雨宮処凛さん講演会
「三重県女子に告ぐ!」
雨宮処凛の生き方幸福論

●フレンテまつり



今年度の「男女共同参画強調月間ff(フォルティッシモ)」のファンファーレ・イベントは、
息苦しい世の中をこれからも生き続けるための“エー

生きづらさを抱える不安定雇用者・フリーターの長期化

94年～99年まで私自身もフリーターをしていました。91年にバブル崩壊があって93年に高校を卒業し、いい大学に入ってもどうなんだろうと思った。頑張ったら報われると思っていたら、努力は報われなくなった。

当時フリーターになるのは自分が悪いんだと思っていたし、本人が好きでフリーターをやっているとか、自己責任論で捉えられる社会背景がありました。

実際は95年に日本経済団体連合会が働く人を3種類(長期蓄積能力活用型、高度専門能力活用型、雇用柔軟型)に分けると提言していて、①幹部候補生正社員か②専門スキルが高い派遣社員か③使い捨て型の人に雇用者は分けられているんです。そして98年には派遣法改正があって、10年後の2005年頃によくワーキングプアなどの問題が社会問題になってきた。

私はどの世代も恵まれているとは思わなくて、社会に階層ができていることが問題だと思います。



生活保護

単身女性の3人に1人が貧困(月に93,000円以下で生活)で、単身高齢女性65歳の52%以上が貧困です。『生活保護』についてみんな知らなさ過ぎだと思います。知らないから負の情報しか入ってこない。バッシングされる不正受給は0.4%で受給者の8割は高齢者や障がい者・傷病者です。

最後のセーフティネットである生活保護。ワーキングプアの人には働いても支給額以下しか稼げない。受給者をバッシングしたくなる気も当然わかります。そんな色々な人の不満を利用し、世論を盛り上げて、生活保護の引き下げを行ったのは、すごく意図的だと感じます。

生活保護は、実はけがや病気などで、誰もがお世話になるかもしれない制度です。特に低賃金・失業前提の非正規の人は人生のどこかで生活保護を受ける可能性を覚悟していないといけません。

どうすればいいのか

生活保護も含め、今後生き抜くためには、自分の生存ノウハウをためておいて、自己防衛能力を上げるしかないんです。ブラック企業で違法な扱いを受けていると知ることでも怒れる。労働法や不当な解雇のことなど、知識を身に付けておく。「労働法」幼稚園(笑)で学ぶということも東京でやっています。そして生活保護の申請方法を知ったり、利用に対する自分の「心の壁」を越えるのも重要です。

今の若者に対して

「怒る」ということにはすごいエネルギーが必要で「自分はこんな目にあっている人間じゃない」という最低限の自己肯定感がないと



今回の雨宮さんの講演会は、
みえ若者就労支援ネットワークとの連携で行いました!

写真左はインタビュアーをお願いした石阪督規さん(東京未来大学准教授)

「働くことってどんなことだろう」「対人関係が苦手で、働くことに不安を感じている」「働いていない期間が長くなってしまったんだけど、どうしたらいいのだろう」という仕事に対する不安や迷いを感じている若者や、その保護者、関係者のサポートをしているみえ若者就労支援ネットワークと連携して行った今回の講演会。スタッフさんに受付でアンケートなどを配布していただきました。また、同日開催のフレンテまつりでもブースを出していただきました♪ブースは2日間にわたり、適職診断を実施したり、青々としたおいしそうなお松菜や古本を販売したりしていただきました。どちらも盛況のうちに終了し、大成功の連携となりました。



宮処凜の生き方幸福論」 「フレンテみえ」多目的ホール 6/8(土)

ロリータを戦闘服に、働く貧困層のジャンヌ・ダルク雨宮処凜さんがフレンテに初登場！
ル”をたくさんいただきました。お話の一部をご紹介します！

人は怒れないんです。今の若者は競争社会で自己肯定感を奪われてブラック企業に怒れない人もいる。

「もう黙っていないぞ!」と不安定層が声をあげているのがプレカリアートデモです。私は2006年のメーデーでプレカリアート問題を初めて知って、今まで「心の問題」だけで見ていた生きづらさの背景にある色んなことがすごく鮮明になりました。

生きづらさの背景には、社会の構造がある。競争社会で勝ち抜かないと価値がないとされ、「普通に働いて、普通に生きること」は現在では一部のみにしかできなくなっています。

正社員と非正社員で対立しても実はどちらも得をしない。過度な競争社会の元で不安定を強いられている人々、プレカリアートには実はほとんどの人が含まれているんです。

プレカリアート運動では「無条件の生存の肯定」が最大のスローガン。「生存」は、競争に勝ったり価値を生み出したご褒美として与えられるものではなく、無条件に与えられるものです。どんなに貧乏でも役立たずでも堂々としていていい。一種の開き直りで生きていこう。デモ活動は自己表現の場で、精神バランスを保つために必要なことだと思います。

世の中を変えるには選挙という手段もある。若者の投票率が低いと批判するよりも、彼らから政治について考える時間を奪っている社会を、憂慮すべき。社会の方がそんな若者に政治について考えてもらう時間を保障するべきです。

生きづらさを乗り越える

私も元々自己肯定感は低かったんです。でもそれだと生きづらから、「無条件の生存の肯定」を無理やり自分のスローガンとしました。自分への期待値が下がって、自分がどんなにどうしようもない状況・人間でも、何も満たしていなくても、大丈夫と思えるようになりました。他人にも自分にも甘くなって何となくダメになった気もする(笑)けど、それも含めてまあいいかと思えるようになりました。

実際、人に迷惑をかける・かけあう機会が増えます。現代は「人に迷惑をかけるな」という圧力がものすごく強いけれど、「適度な迷惑をかけあう」のが当たり前の人間関係だと私は思います。

インドでは「お前は人に迷惑をかけて生きるんだから、ほかの人のことも許してあげなさい」という言葉があるそうです。人に迷惑をかけるから、人のことも許せということ。とてもいい言葉だと思います。

無条件の生存を無理やり肯定する、そして開き直ってしまう!というのが私が生きやすくなったきっかけです。



Photo: 稲治剛

あま みや か りん

雨宮処凜 Amamiya Karin

1975年、北海道生まれ。00年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』で作家デビュー。著書は『すこい生き方』、『ワーキングプアの反撃』(福島みずほと共著)『小心者の幸福論』など多数。現在は生活も職も不安定さに晒される人々「プレカリアート」問題に取り組み、取材、執筆、運動中。07年に出版した『生きさせろ! 難民化する若者たち』は、JCJ(日本ジャーナリスト会議)賞を受賞。「反貧困ネットワーク」副代表、「週刊金曜日」編集委員、「フリーター全般労働組合」組合員、「こわれ者の祭典」名誉会長、最新刊に『14歳からわかる生活保護』。

Report!

フレンテまつり2013

6/7(金)~8(土)

「フレンテみえ」登録団体の交流イベント

6月23日~29日は国が提唱する「男女共同参画週間」です。フレンテみえではこの「男女共同参画週間」を含む6月を「男女共同参画強調月間(フォルトイッシモ)」と定め、さまざまなイベントを行っています。

毎年この時期に開催しているフレンテまつりは、フレンテみえ登録団体によるおまつりで、今年で10回目になりました。例年より梅雨入りが早く天候を心配していましたが、2日間ともに晴天に恵まれたたくさんの皆さんにご来場いただきました。

活動展示やワークショップ、舞台発表にフリーマーケット。今年は広場での催しを増やし、フラダンス、笑いヨガ、気功、太極拳などの発表に、子どもが飛び入りで参加する姿も見られました。

フレンテまつりは、参加団体の日頃の活動発表の場であるとともに、参加団体の交流とネットワークづくりの場でもあります。今年は例年にも増して参加団体同士の交流が各所で見られ、新しいつながりができたように思います。このつながりからまた新しい何かが始まるかもしれません。

来場された方からは「見所がたくさんあって楽しめた」「こういう催し物があることをはじめて知り、ためになった」などの感想をいただきました。来年度のフレンテまつりもお見逃しなく!

※フレンテみえでは、男女共同参画に対する意識を持って活動されている団体の支援を目的とした登録制度を実施しています。詳しくはお問い合わせください。



団体の活動発表パネル展も多数!



舞台発表ではフラダンスをはじめ、和太鼓や太極拳なども広場にもフリーマーケットなどたくさんのブースが並びました

三重そうぶん
シネマスクエア2013

長編映画

毎日が アルツハイマー

フレンテみえの
セレクトは

【9月23日(月・祝) 13:30~】

Everyday is Alzheimer's

料金:前売800円、当日1000円(シネマカフェ付)／前売1300円、当日1500円)

関口祐加監督が自らカメラを回し、2年半にわたって記録してきた
アルツハイマーの母との暮らしのドキュメンタリー動画です。

前作の「THE ダイエット!」はご自身を被写体にされた作品でした。

今回、実のお母様を被写体選ばれた理由に関口監督にお聞きしました。



© 2012 NY GALS FILMS

(関口監督)

「ドキュメンタリー映画の監督は、いつも魅力的な被写体や、アイデアを模索しているものです。今回は、アルツハイマーになって魅力的になった母を撮りたかった。アルツハイマーになった母は、ネコを被ることを止め、自分に正直に笑ったり、苦しんだり、怒ったり、泣いたりしている。そんな母を愛おしいと思い、被写体にしたかったのです。決してアルツハイマーだけを撮りたかったのではありません。この映画は、母と娘である私の関係の結び直しを撮ることにもなりました。「毎アル」は、そういう意味では、家族の物語であり、母と娘の関係の物語でもあるのです。」

※関口監督へのインタビューはMニュースVol.99でもさらに詳しく掲載されています。

介護やアルツハイマーについての認識が変わる本作品、ぜひ一度ご覧ください。

また、フレンテみえ情報コーナーには関口監督著作の「毎日がアルツハイマー」、「夢を壊さないでっ!ゆかのTHEダイエット!」、新刊の「ボケたっていいじゃない」、共同著書の「いま、世界で女性たちは」の書籍があります。

特に「毎日がアルツハイマー」は映画の舞台裏を覗いている様な楽しさで、作品への理解がますます深まります。

関口 祐加

(せきぐち ゆか)

映画監督。日本で大学卒業後、オーストラリアに渡る。2010年、母の介護をしようと決意し帰国。現在横浜で母親と二人暮らし。オーストラリアで映画監督となり、1989年「戦場の女たち」で監督デビュー。過去3作品のすべてが内外で受賞。その作風は、ズバリ重喜劇。シネマスクエアでは3年前「THE ダイエット!」上映に引き続き2度目の来県。

大人女子のための

大人の女性が自分を解放するためのイベント「Kkossori 夜話会」第2弾!

今回は、こっそり観たい映画会「THE ダイエット!」です。

「毎日がアルツハイマー」の関口祐加監督が自らダイエットに挑む姿をユーモラスに描いたドキュメンタリー映画。ダイエットに悪戦苦闘しながら自分自身と向き合う監督。大笑いしたり、ほろっと涙したり・・・秋の夜、ゆったり映画を楽しみながら、自分だけのひとときを過ごしませんか。嬉しいお茶付きです♪

日時:10月4日(金) 19:00~20:30 料金:500円(コーヒー・紅茶付き) 定員:女性30名程度(申込先着順)

*小さいお子様がいらっしゃる方は、託児サービス(0歳~小学3年生・1人1回1,000円)をご利用ください。



Report!



三重県内男女共同参画連携映画祭2013

三重県内の男女共同参画をより一層推進していくことを目的にする映画祭もいよいよ7年目!今年は連携の輪が広がり県内21会場で開催しました!年々知名度が上がり、チケットは例年以上の早さで配布終了の市町が相次ぎ、嬉しい悲鳴があがりました。

作品をさらに深く理解していただくためのプレトークやアフタートーク、団体主催の寸劇や映画監督の来県による豪華トークもありました。映画を通して男女が共に生きるヒントを見つけていただけたでしょうか。すべての会場で託児も実施していることも連携映画祭ならではの嬉しい所です。毎年楽しみにしていただいている方や、会場をハシゴしていくつもの作品を見て頂いた方もいらっしゃいました。来年もどうぞお楽しみに♪



亀山市会場
アフタートークの
様子



大台町会場
の様子



今年9月10日、「兄帰る」で2011年の三重初演から奇跡の3年連続上演が実現する二兎社。主宰の永井愛さんにお話を伺いました。「情報誌Frente」だけの特別企画です！

—今回の上演作「兄帰る」は、14年ぶり、初めての再演となるそうですが、なぜいまこの作品を再演しようと思われたのでしょうか。

『兄帰る』はチャンスがあったら再演したいと思っていた作品です。今か今かとベストタイミングを狙っていましたが、なかなかぴったり来る時期が巡ってきませんでした。

ところが、3.11と原発事故があって、この国で重要な物事がどのように決められてきたのか、そのシステムが透けて見えてしまった。それが『兄帰る』で描かれる「物事の決め方」とオーバーラップしているように見えて、今が上演するのにふさわしい時だと思いました。普段だったら問題のない家族でも、何かをきっかけに信頼が揺らいだり、関係が崩壊したり……。この作品で起きていることは、現代を苦く照らし出していると思います。

—一時を経て改めてこの作品と向き合われて、どのようなお気持ちになりましたか。なにか、当時とは違う「変化」は感じられましたか。

『兄帰る』で描かれている状況は、基本的に変わっていないと思います。リストラや就職難もそうだし、小さな共同体の人間関係の中で孤立したりすることは、むしろ今の方がピンと来るのではないのでしょうか。「正論」を言うことの難しさは、以前よりも顕著になった感じがします。「これが正しい」と思っても、力関係に配慮したり、周りの空気を読んだりして口に出せない。家族の中ですら、みんながよりよい方向へと心を開くことは難しい。小さな出来事をきっかけに日常の中で切羽詰まり、非日常に追いやられてしまうのはよくあることです。それをどう解決していくかが、人間の向うべき方向であり、永遠のテーマだと思います。

—今回の公演も、鶴見辰吾さん、草刈民代さんをはじめとした、二兎社ならではのユニークで魅力的なキャストの皆さんが揃われましたね。

その俳優が演じることによって、役柄のリアリティが増す人、その役の「宇宙」を支えてくれる人—— そんな人をキャスティングしたいと思っています。

鶴見さんは、繊細で真面目な感じがする一方で、ひょうきんな部分も

あるのが、幸介という一筋縄ではいかない役柄にぴったりだと思いました。善の中の悪、悪の中の善を縦横に行き来できる資質がないと、役柄にも幅が出ません。そういった意味でも、鶴見さんにオーケーをいただいた時は嬉しかったです。

草刈さんは、凛として、背筋がまっすぐのイメージがありますが、そういう姿勢で続けることの大変さをよく知っている方だと思います。空気を先読みするのではなく、たとえ突出してしまっても「こうだ」ということを人に伝えようとするのが真弓のメンタリティー。草刈さんにも、困難ではあるけれど、変に調和して生きるよりは正論を通す、そういう覚悟が感じられます。そんな草刈さんが、真弓という役柄を生きることに説得力があり、ベストなキャスティングだと思いました。

—永井さんはこの作品を「“選択”についての物語とも言える」とおっしゃっていますが、永井さんご自身はこれまでご自分の“選択”に自信を失いそうになったことはありましたか。

私にとって「劇団を作る」ことは、「大きな力に頼らずに生きていく」という“選択”でした。重大な選択が一度に訪れたというより、人に劇作や演出を頼んでも断られてしまい、自分でやるしかないという覚悟が決まっていたんです。

私は自分の選択を後悔したことは一度もありません。その時は大変でも、後から「新しい経験ができてよかったな」と思うことばかり。できるかできないかを考えるよりも、それをやることで自分の可能性が開けるかどうかをまず考える。それが私の選択の基準です。たとえ不安があっても、「やらない後悔」より「やってしまった！」方がよほどいいと思います。

—9月10日、いよいよ3年連続の三重公演が実現することとなりました！三重でお待ちの皆さまに、メッセージをお願いします！

三重のお客さんは、いつも息を詰めて真剣に観てくださるんですよね。でも、大きな声で笑ったりしても全然構わないので、どうぞリラックスしてご覧ください。毎回トークをする度に、本当にお客さんが熱心に聞いてくださるので嬉しくなります。3年連続公演で、自分にとっても三重が身近になってきました。また皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

永井 愛 Ai NAGAI
劇作家・演出家／二兎社主宰

最近の作品に「こんばんは、父さん」「シングルマザーズ」「かたりの椅子」「歌わせたい男たち」「書く女」「片づけたい女たち」「やわらかい服を着て」「パートタイマー・秋子」「新・明暗」「こんにちば、母さん」など。
紀伊国屋演劇賞個人賞、鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、読売文学賞、朝日舞台芸術賞秋元松代賞などを受賞。

二兎社公演 38



「兄帰る」

作・演出／永井 愛
共催／二兎社・三重県文化会館
出演：鶴見辰吾、草刈民代、
堀部圭亮 ほか

職を失い、目も当てられない姿で弟夫婦の前に現れた問題児の「兄」。

その処遇をめぐる、親類縁者が話し合いを始めるが…。

“中村家”の物事の決め方を通して、「日本人のアイデンティティー」を浮き彫りにする辛口の現代喜劇！

チケット好評発売中！

日時：9月10日（火） 19時00分開演 18時30分開場 会場：三重県文化会館 中ホール
料金：S席4500円、A席3500円 学生（25歳未満）20%割引 ※キャンパスシート対象
お問合せ：三重県文化会館チケットカウンター Tel.059-233-1122



撮影：須藤秀之

* Event Report! *

4月10日(水) 平成25年度 フレンテみえ企画・運営サポーター自主企画事業

追悼 ベアテ・シロタ・ゴードンさん～ベアテさんからの贈りもの～ 映画「私は男女平等を憲法に書いた」上映・学習会

ベアテさんが私たちに残してくれた功績とありし日のベアテさんを偲んで3月2日の『ベアテの贈りもの』映画上映に引き続き、第2弾の追悼イベントを実施しました。

現在の日本国憲法にうたわれている「男女平等」は今でこそ当たり前のことですが、明治憲法では、女性は権利を持っていませんでした。この現在の「男女平等」の草案を書いたのが、当時GHQ民政局にいたベアテさんでした。映画では、22才の若い彼女がなぜそんな大役を任されることになったのか。憲法草案作成についての秘話などを含めたこの作品を見て頂くことで、人権について、さらに男女平等の大切さについて考えるきっかけにしていただけました。上映後はゲストの鈴山雅子さんによる学習会を行い、参加者同士の意見交換も行いました。折しも、日本国憲法改正の検討が議論されている時期に開催したこの講座は、当初の予想を上回る多くの方にご参加いただき、大きな反響がありました。



4月17日(水)

大人女子のためのkkossori夜話会 こっそり聴きたいブックカフェ

日々の忙しさに追われて自分の時間が持てない女性のために夜のひととき、自分だけの時間を持ていただき、新しい自分に出会うための夜話会がスタートしました！

講師は子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主の増田喜昭さんと絵本作家のつつみあいさん。

たくさんのお話や、お二人の生き方を通して、「粹」にとらわれないことの大切さについて話されました。つつみさんは「私は絵を描いている時が一番自分らしい。絵を描けなかったら母でも人間でもいられない。女性はこんなことを言ったり、したりしたら迷惑じゃないかな、と男性よりも思いがち。自分を持って行動したら大抵大丈夫だと思う。」とコメント。増田さんは「そんな女性はかつていいね。まだ気づいていない、知らない自分に気づいて欲しい。」と参加者の方にエールをおくられていました。他にも興味深い話をたくさんお聴きし、時に笑いに包まれ、時に涙ぐむ方もあり大好評のうちに終了しました。



5月11日～6月22日 女性のための自己尊重トレーニング

今年も定員(24名)の2倍のご応募をいただき、抽選の結果、県内の各地域から、20代から60代の幅広い年代の女性たちが参加されました。講師は、名古屋YWCAの具ゆりさん。全5回のトレーニングでは『私』を知ろう、『私』の中のとらわれなど毎回テーマに沿って講義やワークを織り交ぜた内容でした。ワークをした後のグループや全体の話し合いでは、参加者から活発な意見が出されました。そこには、トレーニングを通して、自分を見つめ、理解しようとする参加者の方々の真摯な姿がありました。トレーニングを終えて、ありのままの自分に向き合った結果、受講生の皆さんは、自分を認める手がかりがつかめたのではないのでしょうか。また、トレーニング終了後は、修了生の有志によるグループ「ひまわり」が発足し、語り合いの活動を始めました。

5月11日～6月29日 女性のための自己主張トレーニング

フレンテみえ相談室には多くの女性から対人関係の相談が寄せられます。相手の気持ちを考えすぎて、自分の気持ちが言えなかったり、気持ちと反対の行動をとってしまった…このような女性たちからの悩みを受け止め、自分の思いを自分に合った言葉で、過不足のない伝え方を学ぶ「自己主張トレーニング」を毎年開催しています。

今年は「きちんとNOと言える自分になる」ことを目標にしたトレーニングを5回にわたって開催しました。今年も40名のお申し込みをいただき、抽選で選ばれた24名が参加しました。

「NO!に慣れる」ワークやロールプレイを通じて、少しずつ断ることや自分の気持ちを伝える練習をしていきました。始めはNOを言うのが悪いことをしているように感じていた参加者もいましたが、最後には「自分の気持ちを伝えてもいいんだ」「言葉にしてみてもスッキリした」という感想が聞かれました。

5月26日(日) 男性講座 「男はつらいよ 働き盛り*男の人生設計!」

気づけば働き盛り。公私にわたってやりがいや喜びを感じることが増えるとともに、責任も重くなる。

そんな男性を対象に、これからどう生きていくか?を考えてもらう講座を開催しました。講師は京都橘大学助教の濱田智崇さん。

男性は他人に弱みを見せず、自分に鞭打って「こうあらねばならない」を課し続ける傾向があり、うまくいかない場合は、更に鞭打って自分で自分を追い詰め、つぶれてしまう。男性が抱える様々な問題の根底には、この「ねばならぬ思考」があるとのこと。「ねばならぬ思考」をほぐすことが、問題解決力になる、という話をいただきました。

受講者同士が語り合うワークもあり、参加された方からは、「普段興味がありながら、なかなか真剣に考えることがなかったテーマなのでとてもためになった」「他の人の話が聞けてよかった」等のご意見をいただきました。

前号から始まったスペシャル・エッセイ。執筆は「インパラの朝」などの著書で知られるノンフィクション作家、中村安希さんです。三重にも縁のある中村さんが世界中を旅する中で出会い感じた「女性の生き方」をテーマに4回にわたってお届けします。どうぞお楽しみに！

「世界を旅して、女性の生き方をみる」〜パキスタン編②〜

ノンフィクション作家 中村 安希

パキスタンのバスの中で知り合った大学生に連れられて、街の女子大学を訪れた。彼女が授業に出ている間、カフェテリアで一人時間を潰している。と、たくさんの学生が声をかけてくれた。と言っても、辺境の農村地帯で異人を発見した地元民が両目を輝かせながら集まってくるのとは、全く雰囲気がちがう。街に住むインテリの若者たちは、良い意味で力が抜けていて、またシニカルでもあった。

彼女たちは、椅子の背もたれにだらしく背をもたせ掛けると、コーラの栓を抜き、瓶の口からゴクゴク飲み干した。流行りのファッションとメイク、行ってみたい海外の国について一通り語り終えたところで、ある女の子が悩みを打ち明けてきた。

「最近、許婚と婚約したのだけど、彼との結婚はどうしても考えられない……」

聞けば婚約者の彼はかなりのメタボで、どうもタイプではないらしい。しかし、である。もう婚約もしてしまったのだし、このイスラム教の社会の中で、破談にすることなどできないだろう、と思っていると彼女は言った。

「この婚約が解消されるよう、一緒に祈ってくれませんか？」

結婚までにはまだ三年ある。祈りが届けば破談になり、他の誰かとの再婚約だってありえるかもしれない、とのこと。私たちはみんな祈った。もちろん笑いながら、でもちよっぴり本気になったりして。話は理想の男性のタイプに移り、彼女たちは別の女の子の許婚の写真をキャーキャー騒ぎながら見はじめた。特別なことは何もない。世界中どこにでもありそうなカフェテリアでの一場面だ。 (了)

中村安希(なかむらあき)

ノンフィクション作家。

1979年京都府生まれ、三重県育ち。2003年、カリフォルニア大学アーバイン校、舞台芸術学部卒業。日本とアメリカで二年間の社会人生活をおくる。その後二年間、47カ国をめぐる旅をもとに書いた「インパラの朝」(集英社)で09年、第七回開高健ノンフィクション賞を受賞。他に若き政治家たちへインタビューを試みた『Beフラット』(亜紀書房)、『食べる。』(集英社)、『愛と憎しみの豚』(集英社)がある。

BOOK 著書ご紹介

フレンテみえの情報コーナーで世界を知る

情報コーナーでは、中村安希さんの著書を読むことが出来ます。

エッセイとあわせて読んでいただくと一段と世界中で暮らす人々に興味がわいてきます。

「インパラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日」(集英社/2009年)

世界各地の生活に根づく「小さな声」を求めて。貧困、紛争、汚染、疫病。まことしやかに語られる世界は、本当は一体どんな姿をしているのか。自らの目で確かめるべく26歳の著者は2年間、47カ国にわたる旅に出た。第7回開高健ノンフィクション賞受賞作。

また、この他にも「続地球家族 世界20か国の女性の暮らし」など世界の女性の暮らしを知る書籍もあります。書籍の貸出も行っていますので、フレンテにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

もっと知りたい! わたしのカラダin三重 上手にわたしのカラダと付き合うために

ウィメンズセンター大阪と大塚製薬の呼びかけにより全国規模の健康キャンペーンが実現!

女性の生涯の健康について考える全国キャンペーンを順次15都市で開催します。三重県では津と四日市(10/11)で連日開催されます。

女性のからだの病気や更年期についてお話を聴き、自身のからだとの付き合いかたを考えてみましょう!

日時:10/12(土)13:00~16:30

会場:フレンテみえ セミナー室A

講師:村松温美さん(市立伊勢総合病院産婦人科科長)

高見陽子さん(ウィメンズセンター大阪)

料金:無料

定員:60名

共催:ウィメンズセンター大阪、大塚製薬、三重県立看護大学

男性 講座

~これからの人生を“生きる”ために~

定年*男の「スターティング・ノート」ふたたび! 予告

「家族のため」「会社のため」と働いてきたけれど…。働くことが役割だったこれまで。その役割を終え、「さあ、これからどうしよう?」そんながんばってきた定年世代の男性のみなさんに、楽しく充実した人生を歩むためのヒントを贈ります。仕事中心で駆け抜けてきた日々を振り返りながら、同世代の仲間と語り合い、一緒に新しい生活を描いてみませんか?

昨年、講師にシニア産業カウンセラーでキャリア・コンサルタントの吉岡俊介さんを迎え、大好評だった人気講座を、多くのご要望にお応えして今年も開催します!

日時:10月26日(土)13:00~16:30

会場:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」2階 セミナー室A

料金:無料

講師:吉岡俊介さん(シニア産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント)

申込:事前申込制/先着順…7月30日(火)受付開始

電話・FAX・郵送・Eメール・ホームページ・窓口

託児:あり(1歳6ヶ月~小学3年生・託児料500円/1人・申込締切10/12(土))



フレンテみえでは、平成24年度に三重県内で初めての大規模調査となる 「デートDVに関するアンケート調査」

を実施しました。その調査結果をシリーズでご紹介します。

交際経験のある人の内、女性の3人に1人、男性の6人に1人がデートDV被害を経験

デートDV被害を経験した人の割合は、交際経験のある人の内、全体では約4人に1人(25.5%)、女性の約3人に1人(31.0%)、男性の約6人に1人(17.1%)という結果でした。

また、友人の加害・被害を見聞きしたことがある人は全体の5人に1人という結果が出ています。

ここから、デートDVは一部で起こっている問題ではなく、すべての若い世代に関係する問題であるということが言えます。

高校生・大学生の中で交際経験がある人の内
デートDV被害経験割合(三重県)



被害内容を見てみると...

デートDV被害内容の中で、特に「思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする」「不愉快な性的言動をする」「ケガになるほど、殴ったりけったりする」という項目は、女性の被害経験の割合が男性の約2倍と高い結果が出ており、女性の方が深刻な被害を受けていることが考えられます。

今回の調査から、三重県のデートDVの実態が明らかになりました。DVと同様に、デートDVは当事者間だけの問題ではなく、社会の問題として捉えデートDVを起こさせない防止策が必要です。

フレンテみえでは、デートDV防止啓発講演会の講師派遣を行っています。詳しくはお問い合わせください。

※本調査結果はフレンテみえホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

フレンテみえ って、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索

生き方・家族・人間関係・からだ・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル **059-233-1133**

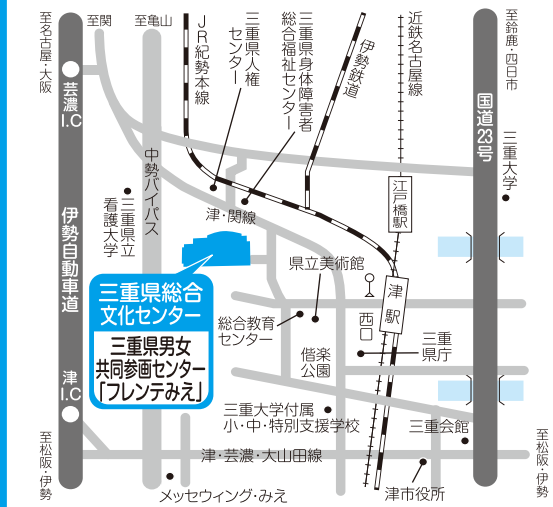
相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日※	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30		●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00		—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか、女性のための面接相談、男性のための電話相談を実施中。詳しくはお問合わせください。

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)

三重県男女共同参画センターまでのご案内



休館日

毎週月曜日
年末年始
(12月29日から
1月3日まで)

交通

■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

[年4回発行/次回10月発行予定]

発行

ME CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター

三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地

TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135

URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。

Design: Graphica